we support↓
RQ 災害教育センター
MONTHLY
「東北に黒糖を送ろう！大作戦しんぶん」改め
復興支援かわらばん『すけさきた』しんぶん
「すけさきた」とは宮城県登米市あたりの言葉で「ボランティアに来たよ」という意味である
JULY 11 2023

九州各地で記録的大雨

橋が崩壊/寺が倒壊/道路が冠水など大きな被害

活発な前線の影響で熊本県では７月３日朝、線状降水帯が発生して非常に激しい雨が同じ場所に降り続きました。九州各地で避難指示などが出されているほか、河川の増水や氾濫、住宅地や道路の冠水などが相次いでいます。

（2023年7月3日　熊本放送　抜粋は文責による）

熊本県山都町では、御船川（みふねがわ）にかかる国道の橋が、大雨の影響で真ん中からへこむようにV字に崩落しました。

近くに住む人によりますと、3日午前7時半頃から8時頃の間に橋は崩落したということです。

崩落する前、橋の中央部分が少しずつ傾き始めたのに近隣住民が気づきました。**住民が橋を渡ろうとする車に迂回するよう案内したことで、崩落に巻き込まれる車は無かった**と、地元消防団の方は話していました。現在も茶色く濁った水が猛スピードで流れています。

崩落により、ここは通行止めになりましたが、すぐ近くに側道があり現在は片側交互通行の迂回路になっています。

▲住民が撮影した映像には、すでに折れかかっている橋を車が渡る様子が映っていました。けが人の情報は入っていないということですが、復旧の目処は立っていません。
「川の増水でゆっくり傾いていって、真ん中が。最初は歩道の方が折れた」（RKK 熊本放送）

▶浄恩寺では仏像などを移動させている間、午前8時くらいに地震のような「メキメキ」という音が聞こえ、本堂が崩れた。

住職によると**震度7の熊本地震に2度耐えた後に、今回の大雨で本堂が崩れてしまった**が、けががなくてほっとしているという。

（コメント：KKT 熊本県民テレビ）

益城町ではけが人なし

異変に気づき住民が呼びかけ合い避難

（2023年7月4日　NHK熊本 NEWS WEB）

今回の大雨で熊本県益城町では広い範囲で冠水したほか、土砂が崩れて寺の本堂が押しつぶされるなどの被害が出ましたが、けが人はいませんでした。

一夜明けた現地を取材すると、土砂を含んだ大量の水が押し寄せてくるなどふだんの雨とは違った現象を地域の人が見つけたことをきっかけに、**住民が避難を呼びかけ合うなど、異変への気づき**が早めの避難につながっていました。

益城町にある浄恩寺では裏山の土砂が崩れて本堂が押しつぶされるなど大きな被害を受けましたが、住職の玉春勇樹さん（40）と家族は、避難してけがなどはありませんでした。

玉春さんに避難を促したのは地域の役員の西山優一さんでした。

西山さんは3日朝6時ごろ、自宅の前を土砂を含んだ赤い水が流れているのを見つけました。

近くにある浄恩寺を見に行くと、**大量の赤い水が境内を流れていた**ということです。

ふだんから雨が降ると水が流れることはあったということですが、**3日はいつもとは違う量だったということで、異変を感じた西山さんは近所に避難を呼びかけました。**

西山さんは「土砂を含んだ水が道路を滝のように流れていく状況だった。どうにかしないといけないと思い命が大事だということで避難させた」と話していました。

住職の玉春さんは「連絡をもらって外を見た時に、境内を濁流が流れている状況で大変なことになったぞと気がついた。**あのタイミングでなければ逃げるのが難しかっただろうと思います。近隣の方が危ないと教えて下さったことで無事に避難できました。**全く情報がなかったならば違う結果になったと思います」と話していました。

資料：NHK NEWS WEB、RKK熊本放送、NHK熊本NEWS WEB、KKT熊本県民テレビ

文責：井上文子（西表島エコツーリズム協会　東北復興支援担当）